江戸・京都街道計画ゲーム

1601 年、徳川家康たちは江戸と京都を結ぶ街道をつくろうとしていた。江戸と京都をを結ぶルートは複数考えられるが、一度に複数のルートを整備することはできない。そこで、どのルートから整備すればよいかを考えよう。

ゲームのルール

1．地図「江戸・京都街道計画マップ」の「江戸」から「京都」までの街道のルートを考える。マップにルート書き込み、ポイントを計算する。
2．ヘクス（マス目）の中心を通るように、ルートを引いていく。
3．各ヘクスには、標高にもとづいたポイントが書かれている。標高が低いほど歩きやすい道になる。ルートが通るヘクスのポイントを足していく。
4．濃い緑色のヘクスは主要な都市を表している。都市を通るようにルートを引くと、10 ポイントを引くことができる。
5．水色のラインは大きな川を表している。当時は、川に橋が架かっていなかったため、川を通るのは難しい。そこで、川を横切るときは 10 ポイントを足すことにする。
6．熱田から桑名は、船で海を渡れる。その場合は 10 ポイントを足すことにする。
7．一度通ったヘクスは再度通らない。
8．いくつかルートが考えられる。下の解答欄にそれぞれのルートのポイントや通る都市を記入する。ポイントの合計が最も低いルートが 1 番初めに開通させるルートとなる。

解答欄

ルート1	標高ポイント	P	川のポイント	P	船のポイント	P
	都市ポイント	ー P	合計ポイント	P		
	通る都市	江戸→				→京都
ルート2	標高ポイント	P	川のポイント	P	船のポイント	P
	都市ポイント	ー P	合計ポイント	P		
	通る都市	江戸→				→京都
ルート3	標高ポイント	P	川のポイント	P	船のポイント	P
	都市ポイント	ー P	合計ポイント	P		
	通る都市	江戸→				→京都
ルート4	標高ポイント	P	川のポイント	P	船のポイント	P
	都市ポイント	ー P	合計ポイント	P		
	通る都市	江戸→				→京都

※ 合計ポイント＝標高ポイント＋川のポイント＋船のポイントー都市のポイント

江戸・京都
街道計画マップ

江戸・京都街道計画ゲーム（教材解説）

・本教材は太田貴之（千葉大学大学院教育学研究科修士課程）が中心となり開発しました。
　荒崎智史氏（アラサキデザインスタジオ）が教材開発の協力をしています。
・このマップは Adobe Illustrator で制作しています。サイズは A3 です。
・Web アップ用に一部教材を変更しています。
・マップの中にある川や町は、橋が架かっていない川や主要な都市をすべて表しているわけではありません。教材用に選定してあります。
・京都～大坂（大坂街道）はすでにルートが引いてあります。ルートの引き方の参考にさせてください。ただし、ポイントの計算は江戸～京都の部分のみ行います。
・本ゲームの標準人数は、一組当たり２人です。
・時間は最低 20 分あるとよいと思われます。
・各ルートとポイントについては下記の表をご覧ください。

・本教材を使用して、2013 年 12 月４日に中学校３年生に授業を行いました。
・ゲーム終了後に、以下の解説を行いました。下記の「五街道解説マップ」も配付しました。

五街道整備についての解説

● <u>東京と京都を結ぶ街道は、複数のルートが考えられるが、どのような地点を通るルートから整備されるのか？</u>

１．基本的には、東京と京都を結んだ距離が短い方がいい。
２．しかし、標高が高いところは、道がデコボコしていて歩きにくいので、できるだけ標高が低いところを通した方がいい。
３．ただし、河川には当時、橋が架かっていなかったので架かっていなかったので、大きな河川を渡るときは負担がかかる。
４．また、街道を作っても人が通らないと意味がないので、発展している（これから発展する）都市（町）を通るようにする。
５．１～４のバランスを考えて、整備するルートの順番を決める。

● <u>五街道整備についての歴史的・社会的背景</u>

　徳川家康は、新しく幕府を置いた江戸と、京都・大坂との間で情報ができるだけ早く伝わるようにする必要があると考えた。しかも、関西で問題が起きれば、大量の兵力を送れる軍事用の道路にしなければならなかったため、街道の整備を行った。
　五街道の他にも、主要な都市を結ぶために脇街道が整備された。
　河川に橋が架かっていなかった理由としては、河川が関所と同様の役割を果たした、船渡しや徒歩渡しの人の仕事を奪わないように配慮した、橋を架ける技術が未発達だった、など諸説がある。
　また、熱田と桑名の間は、揖斐川や木曽川など複数の川があったため、船で海を渡った。都市については、江戸時代は城下町・宿場町・門前町など様々な性格の都市があったとされる。街道の整備により人や物の移動が活発になり、大きな都市が形成されていった。

ルート1（正解・東海道）	標高ポイント	５７Ｐ	川のポイント	４０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－９０Ｐ	合計ポイント	１７Ｐ		
	通る地点	江戸→相模川→小田原→箱根→富士川→静岡→大井川→掛川→天竜川→浜松→岡崎→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート2	標高ポイント	６３Ｐ	川のポイント	５０Ｐ	船のポイント	０Ｐ
	都市ポイント	－８０Ｐ	合計ポイント	３３Ｐ		
	通る地点	江戸→相模川→小田原→箱根→富士川→静岡→大井川→掛川→天竜川→浜松→岡崎→熱田→木曽川→加納→草津→京都				
ルート3	標高ポイント	７７Ｐ	川のポイント	５０Ｐ	船のポイント	０Ｐ
	都市ポイント	－１００Ｐ	合計ポイント	２７Ｐ		
	通る地点	江戸→相模川→小田原→箱根→富士川→静岡→大井川→掛川→天竜川→浜松→岡崎→熱田→木曽川→加納→桑名→亀山→草津→京都				
ルート4	標高ポイント	６９Ｐ	川のポイント	３０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－９０Ｐ	合計ポイント	１９Ｐ		
	通る地点	江戸→小田原→箱根→富士川→静岡→大井川→掛川→天竜川→浜松→岡崎→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート5（中山道）	標高ポイント	１１７Ｐ	川のポイント	１０Ｐ	船のポイント	０Ｐ
	都市ポイント	－７０Ｐ	合計ポイント	５７Ｐ		
	通る地点	江戸→荒川→熊谷→高崎→碓氷峠→軽井沢→下諏訪→中津川→加納→草津→京都				
ルート6	標高ポイント	１１７Ｐ	川のポイント	１０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－１００Ｐ	合計ポイント	３７Ｐ		
	通る地点	江戸→荒川→熊谷→高崎→碓氷峠→軽井沢→下諏訪→中津川→加納→木曽川→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート7	標高ポイント	１１８ Ｐ	川のポイント	１０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－１００Ｐ	合計ポイント	３８Ｐ		
	通る地点	江戸→荒川→熊谷→高崎→碓氷峠→軽井沢→下諏訪→中津川→岡崎→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート8	標高ポイント	１２２Ｐ	川のポイント	１０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－９０Ｐ	合計ポイント	５２Ｐ		
	通る地点	江戸→大月→甲府→下諏訪→中津川→加納→木曽川→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート9	標高ポイント	１４６Ｐ	川のポイント	３０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－１２０Ｐ	合計ポイント	６６Ｐ		
	通る地点	江戸→大月→甲府→下諏訪→松本→善光寺→高田→富山→神通川→金沢→九頭竜川→福井→加納→木曽川→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				
ルート10	標高ポイント	１１３Ｐ	川のポイント	４０Ｐ	船のポイント	１０Ｐ
	都市ポイント	－１１０Ｐ	合計ポイント	５３Ｐ		
	通る地点	江戸→荒川→大宮→熊谷→高崎→碓氷峠→軽井沢→善光寺→高田→富山→神通川→金沢→九頭竜川→福井→加納→木曽川→熱田→船→桑名→亀山→草津→京都				

五街道
解説マップ

紫：奥州街道（江戸～白河）
1646年完成　宿場数27
江戸～宇都宮は日光街道と重複
黄：日光街道（江戸～日光）
1636年完成　宿場数21
江戸～宇都宮は奥州街道と重複
青：中山道（江戸～京都）
1694年完成　宿場数67
草津～京都は東海道と重複
茶：甲州街道（江戸～下諏訪）
1772年完成　宿場数38
下諏訪で中山道と合流
赤：東海道（江戸～京都）
1624年完成　宿場数53
京都～大坂の大坂街道を含める場合もある
熱田～桑名は海上路「七里の渡し」
高田
富山
金沢
福井
白河
日光
宇都宮
水戸
軽井沢
碓氷峠
高崎
松本
熊谷
古河
下諏訪
土浦
大宮
甲府
大月
江戸
佐倉
加納
中津川
飯田
横浜
箱根
小田原
京都
草津
熱田
桑名
岡崎
亀山
静岡
大坂
奈良
浜松
掛川
下田